

《担当者名》長谷川 聡 (非) haseg@hoku-iryo-u.ac.jp

【概要】

情報化社会はデータと情報処理技術のコスト低減をもたらした。同時に国内外の行政統計や調査研究データが電子化され、加工利用可能なインターネット上の一次資料として公開するようになった。本講ではこれにアクセスして「データに基づく/根拠のある地域福祉課題の発見と説明」ができる情報リテラシーを身につけることを目的とする。併せて情報化社会における地域福祉課題について検討する。

【学修目標】

- 1) データサイエンスの概要と手法を説明できる
- 2) 地域福祉における情報化の価値と意味を説明できる
- 3) 地域福祉に関連する情報を取り扱い分析評価できる
- 4) データに基づく地域アセスメントとニーズ発見の手法を実行できる

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	オリエンテーション データサイエンス基礎	シラバス詳細説明と本講のすすめ方 地域福祉とデータサイエンスを扱う意味と価値 データサイエンス概説(教科書Section1)	長谷川
2	データ活用の知識と技術	地域情報関連オープンデータベースとその検索 (教科書Section2)	長谷川
3	データ活用の知識と技術	地域福祉データ活用と統計分析 (教科書Section3)	長谷川
4	データ活用の知識と技術	統計分析とデータ表現と地域ニーズ発見手法 (教科書Section3)	長谷川
5	データ活用の知識と技術	データ表現とプレゼンテーション (教科書Section4、5)	長谷川
6 ┆ 7	地域福祉情報活用演習(全体)	オープンデータによる情報処理演習 (地域特性、地域課題)	長谷川
8 ┆ 9	地域福祉情報活用演習(個別)	個別演習の対象と課題の討議による選定 オープンデータ入手と前処理	長谷川
10 ┆ 11	地域福祉情報活用演習(個別)	個別演習課題の実施経過報告と討議	長谷川
12 ┆ 13	地域福祉情報活用演習(個別)	個別演習課題のプレゼンテーションと討議	長谷川
14 ┆ 15	地域福祉情報の実際	ネット情報と文献のクリティカルブラウジング・クリ ティカルリーディング	長谷川

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部(研究科)、学校の授業実施方針による

【評価方法】

授業への参加状況(討議発言、プレゼンテーション、リアクションシート記入)70%、レポート課題30%により総合的に判断する。リアクションシートとレポートはオンライン提出とし、コメントを付けて返却する。

【教科書】

はじめの第一歩 基礎から始めるデータサイエンス・保本正芳著・noa出版(2022)

**【参考書】**

地域福祉情報論序説「情報化福祉」の展開と方策・森本住樹著・川島書店(1996)

地域の 実践 を変える社会福祉調査入門・笠原千絵編著・春秋社(2013)

文系のための統計学入門-データサイエンスの基礎・河口洋行著・日本評論社(2021)

Rによるテキストマイニング入門・石田基広著・森北出版(2014)

そのほか講義時に資料を適宜配布する

**【学修の準備】**

表計算アプリの基本操作、すなわち表作成、式計算、記述統計関数利用、グラフ作成をできることが望ましい。統計関連では基本統計量(平均、ばらつき、相関)と回帰分析の知識があれば良く、なければ予習しておく。データベース関連では医中誌Web、JSTの各種ファイルおよびJ-Stageによる邦文文献検索ができると良い。準備時点で独学、自学自習が困難な場合は事前の個別相談に応じるのでメール連絡する。希望があれば講義開始後にスキルレベルに合わせて個別指導する。